

国立美術館巡回展	[2~4]
名作と出会う 明治・大正・昭和の美術	
福井県立美術館ボランティアの会	[5]
〈コラム〉若き日の島田墨仙	[6]
イベント報告	[6]
福井県立美術館友の会	[7]
お知らせ・貸館情報	[7]
近隣美術館・博物館スケジュール	[8]
日本まんなか共和国	[8]

表紙: 岸田劉生「道路と土手と堀(切通之写生)」【重要文化財】1915年 カンヴァス、油彩 56.0×53.0cm 東京国立近代美術館蔵



国立美術館巡回展
 明治・大正・昭和の美術
 名作と出会う

2008年11/14(金) ▶ 12/14(日)

休館日/11月25日(火)、12月1日(月)

開館時間/9:00~17:00(入館は16:30まで)

夜間開館/毎週金曜日は20:00まで開館(但し、入館は19:30まで)

観覧料/一般700円、大学生500円、高・中・小学校無料、30名以上の団体は2割引
 身体障害者手帳所持者とその介護者1名半額(但し、障害者手帳に介護印のある者のみ)

主催/独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館、福井県教育委員会、福井県立美術館
 共催/福井新聞社

後援/NHK福井放送局、FBC福井放送、福井テレビ、FM福井

【関連企画】

●講演会

演題:「よくわかる近代日本の美術」

講師:蔵屋美香氏(東京国立近代美術館 美術課長)

日時:平成20年11月23日(日) 14:00~15:30

場所:当館講堂 ※無料

●まちかどふれあいハーモニー

~ハーブ&フルートデュオコンサート~

演奏者:広部正雄(フォークハーブ)、代田純子(フルート)

日時:11月30日(日) 14:00~14:30

場所:当館ロビー ※無料

●担当学芸員によるギャラリー・トーク

日時:11月24日(月・祝)、12月7日(日)、13日(土) 14:00~

場所:展示会場 ※展示会子チケットが必要です。

西欧写実絵画



藤島武二「匂い」1915年
 キャンバス、油彩 69.5×76.cm 東京国立近代美術館蔵

県立美術館では、平成20年11月14日(金)から12月14日(日)まで、秋季企画展として「名作と出会う 明治・大正・昭和の美術 国立美術館巡回展」を開催いたします。

国立美術館は、国が所有している優れた美術作品の鑑賞機会を提供するため、地方公立美術館等と連携し、全国各地で巡回展を実施しています。本年度は、福井県立美術館と高知県立美術館で開催されることになり、東京国立近代美術館と



村山桃多「バラと少女」1917年
 キャンバス、油彩 116.5×72.0cm 東京国立近代美術館蔵

の移入—新派と旧派



青木繁「運命」1904年
板、油彩 23.2×33.0cm 東京国立近代美術館蔵

青木繁
黒田清輝
中沢弘光
藤島武二
和田三造
浅井忠
中村不折
中川八郎
満谷国四郎
山下新太郎
南薫造



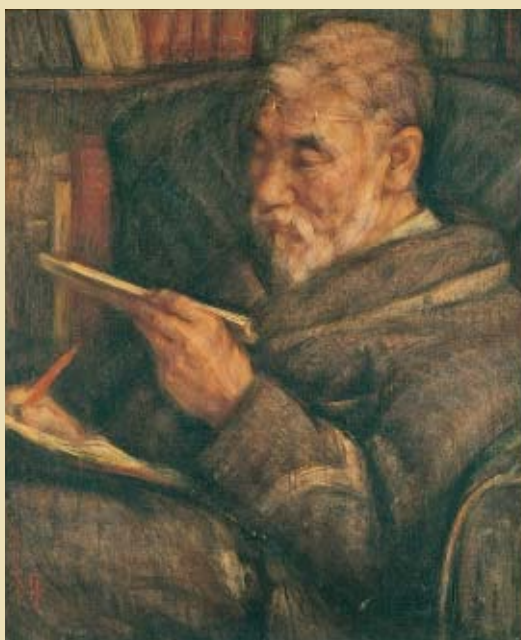
黒田清輝「落葉」1891年
カンヴァス、油彩 80.8×63.8cm 東京国立近代美術館蔵

京都国立近代美術館が所蔵しているコレクションの中から、特に日本の近代洋画に焦点を当ててその諸相を紹介します。

日本の洋画というジャンルは、明治初期における西洋からの油彩画の移入に伴い始まりましたが、その後現在に至るまで、西洋諸派の影響を大きく受けながらも、日本の土壌や時代の中で様々に展開し、独自の絵画を模索してきました。

本展では、このような多様な日本近代洋画の流れを、「西欧

写実絵画の移入—新派と旧派」、「官展VS在野団体—写実から表現主義絵画へ」、「エコール・ド・パリとアメリカン・シーン」、「超現実主義と抽象」という四つのテーマによって切り取り、日本を代表する洋画家たちの優品57点によって構成し、展示・紹介いたします。



中村龔「田中館博士の肖像」1916年
カンヴァス、油彩 73.0×61.0cm 東京国立近代美術館蔵

梅原龍三郎
川上涼花
岸田劉生
小出楯重
児島善三郎
須田国太郎
関根正二
中川一政
村山槐多
安井曾太郎
萬鉄五郎
小磯良平
小糸源太郎
小杉放菴(未醒)
中村龔
小寺健吉
寺内萬治郎
津田青楓
長谷川利行



岸田劉生「麗子弾絃図」1923年
カンヴァス、油彩 40.9×31.7cm 京都国立近代美術館蔵

官展VS在野団体—写実から表現主義絵画へ

里見勝蔵
前田寛治
藤田嗣治
岡鹿之助
坂田一男
東郷青児
国吉康雄
清水登之
野田英夫



清水登之「チャイナタウン」1928年
カンヴァス、油彩 130.5×163.0cm 東京国立近代美術館蔵



国吉康雄「鶏に餌をやる少年」1923年
カンヴァス、油彩 73.7×59.7cm 京都国立近代美術館蔵

エコール・ド・パリと アメリカン・シーン



松本竣介「ニコライ堂と聖橋」1941年
板、油彩 37.7×45.0cm 東京国立近代美術館蔵

古賀春江
三岸好太郎
北脇昇
福沢一郎
岡本太郎
松本竣介
瑛九
草間彌生
靉光
吉原治良
岡本唐貴

超現実主義と 抽象

新春特別展示 「新年を祝って・金のきらめき」 平成21年1月3日(土)～1月18日(日)

平成16年度からスタートした「新春特別展示」は5回を数え、毎回正月らしいテーマで様々な作品をご紹介してきました。今回は金のきらびやかさに新しい年のめでたさを感じていきましょう。

さて、金はその光輝く特質と高価さゆえに、古くから支配者の権威や聖なるものを表現するために広く使われてきました。岩佐源兵衛勝重の「群鶴図」は福井城本丸御殿の一室「鶴の間」の襖絵と伝えられているもので、これらの金箔の障壁画でおおった広間は権威の象徴であるとともに、ハレの場を演出してくれていたことでしょう。また木村武山の金地に描かれた「林和靖」は市中に出ることなく詩作に興じた北宋の詩人。世を離れた高潔な生き方を金地を背景に描くことで、より効果的な演出となっています。

神秘的であり、世俗的権威の象徴でもあり、様々な可能性をもつ金の表現をどうぞお楽しみください。



岩佐源兵衛勝重「群鶴図」



木村武山「林和靖」



福井県立美術館 ボランティアの会

余裕のある日バージョン

ある日の ボランティア密着取材

世の中に、ボランティアと名の付くものは多くあれども、いま想像できない美術館ボランティア。一体美術館のボランティアってどんな感じなんだろう。

そんな素朴な疑問にお答えすべくその日たまたま来ていたボランティアさんにつきまとい行動をリサーチしました。対象となったのは入会一年目のAさんと、図書整理と解説ボランティアを兼ねるベテランのBさん。企画展もなく比較的のんびりとした日だったので、いつもより余裕のある行動パターンとなっていました。

Aさんに見る 典型的な基本活動の一日

🕒 10:00~ 基本活動である①新聞の美術関連記事の切り抜き、②インフォメーションでの案内、③ハイビジョンでの案内を今日来ていた3人で交代して担当し、まずは新聞の切り抜きを一時間やった。来るまではその日何人来るのか全く分からないので、人数がいなときは焦ってしまふ。
(※3人のときは1時間ずつ、4人のときは45分のローテーションで回すそうだ。)



▲新聞切り抜きと談笑中。

🕒 11:00~ インフォメーションでの来館者対応。今日はバスの時間や、展覧会のお問い合わせがあり、その隙間に期限切れチラシの張り替えをした。よくあるのは同じ市内の美術館と間違えて来られたお客様へのご案内。むこうはむこうで県立美術館と間違えられることもあるらしい。

🕒 12:00~ ミュージアム・シアターでの来館者対応。お客様がいなときに番組を観るのも楽しみの一つ。まだ観ていないものもいっぱいあり、勉強ができる。企画展があるときには会場監視もするので忙しくて余裕がないけれども、今日のようにゆっくりできる日もある。
(※ミュージアム・シアターとは、大きな画面で美術の様々な番組を選んで観ることができるもの。)



▲図書ボランティアに整理を託した本の山。いつも感謝しています。(美術館より)

Bさんに見る 自主活動(図書整理)の一日

🕒 10:00~ この時間になるとみんなぼろぼろと集り、お茶やお菓子がすぐに出てくる。



▲図書整理中。

🕒 10:10~ 整理すべき本を取ってきてボランティア室の机の上にごさっと置く。梱包をとり、整理番号を書いたらベルを背表紙につける。このところ本を送ってきてくれる相手先が急増の一途をたどるのに加え、名称・場所変更があるのでリストの作成はきりがない。整理の合間に館蔵品に関連するような図録があればちらちら読んだり、解説での参考になるものを発見するとコピーをとったりする。また、この美術館にはこんな作品があるのか、といった発見があったり、居ながらにして各地の展覧会を図録で体験することができる。図書整理は根気と集中力が要る大変な作業だけど、貴重な発見が毎回必ずあるからできるのかもしれない。
(※Bさんは解説ボランティアも兼ねている。)

台間にお茶とおしゃべりは必須。コーヒーの芳しき匂いをさせると、たいがい2人の男性学芸員がやって来て、寄ったついでに助言してくれる。ボランティア側でも質問があればそのときに聞く。こういうときでないと聞けない話も結構多いのだ。

趣味の合う仲間と話すのも楽しみの一つ。たとえ主人が1ミリだって興味を示さない「岩佐又兵衛」*1でもここではビクトピックであり、同じボランティアでよく知っている方から聞く美術談義も楽しい。
(※1：岩佐又兵衛とは江戸時代の絵師。福井に工房を持っていた。)
ラベルをつけた本を本棚まで運んで入れるのだが、この肉体労働は腰にくるので要注意。

🕒 13:00~ 午後からくるボランティアの人と交代してお昼ご飯を食べ、会員同士しばしの交流。来月活動に入れる日に名前を書き込む。

🕒 13:30~ 帰りがけに美術館内の展示を全部見る。これをずっと続けていたら、それなりに見る目が養われてきたみたいだ…!



美術館ではこの他にも元締め役の運営委員や新聞資料整理などなど、異なった役割を担う人が集まって一つの大きな家を構成しています。多くは美術館を裏で支える縁の下の力持ちのような役割で、どれが欠けても家としては機能しません。AさんとBさんの一日はその大きな家の全貌ではなくある特定部分を紹介しているといえます。

さて、「美術館に来たら何か学んで帰りたい」というAさんや、本を整理しながら自分に必要な情報を的確に収集しているBさんなど、今回密着取材をした二人に共通しているのはどこでも自ら学び続ける「生涯学習」という概念でした。



田墨仙という福井出身の日本画家がいる。枯淡な画風で歴史人物画をよくし、古武士のような品格と熱烈な勤王精神を併せ持っていた。派手さのない(✓)

屏風》(静嘉堂文庫蔵)の新聞写真に衝撃を受けての行動であると言われるが、これは一時の衝動に突き動かされたものではなく、そこにいたるまでには一筋縄でいかな(✓)

合いにして叱られた。一人は家の隣に住んでいたという幕末の志士、橋本左内。もう一人は父雪谷に絵を習いに来ていた表具屋の息子、山本六松。橋本左内に関しては素直に心服したのだが、山本六松となるといささか状況が違って来る。父雪谷に「表具屋の息子が、あんなに勉強もし、よく絵も描くの、お前は武士の家に生まれながら遊び暮らし表具屋にも劣るではないか。」などと言われると全く面白くなかっただろうし、ましてや六松が東京の美術学校へ入ったらしいという話は、燃る競争心に火をつけるには充分すぎるほどだった。

「六松がやるんなら自分にも出来ない事はない。」とはやる心を抑えかね、墨仙は明治19~21年頃、美術学校入学のため東京小石川植物園にある図画取調掛(東京美術学校の前身)へ岡倉天心を訪ねた。しかし天心は留守な上、美術学校はまだ開校して

コラム 若き日の島田墨仙

慶応3年(1867) - 昭和18年(1943)

画風であったことと、これからという円熟期に亡くなったためその名を知る人は少なくなってきたが、福井が生んだ忘れえざる人だ。

幼少から父雪谷に円山・四条派を学び、やがて横山大観や菱田春草を育てた教育者としての手腕が名高い橋本雅邦の門下に入る。それは明治28年(1895)、第四回内国勲業博に出品された橋本雅邦の《龍虎図》(✕)

い曲折を経ていた。まるで痛みを伴う枝打ちを繰り返していくなかで、一本の真っ直ぐで大きな木を育てるように。

墨仙は子どもの頃から絵を習ってはいたものの、武士の家に生まれたからには軍人になろう、だから勉強はしなくていいとかをくり遊んでばかりいたようだ。そのため父の雪谷からは2人の人物を引き(✕)

幕末浮世絵アラカルト 大江戸の賑わい

「イベント報告」
幕末浮世絵アラカルト

北斎・広重・国貞・国芳らの世界

当館では8月2日(土)~24日(日)まで、夏休み特別企画として幕末期の浮世絵に焦点を当てた展覧会「幕末浮世絵アラカルト 大江戸の賑わい 北斎・広重・国貞・国芳らの世界」を開催しました。そして会期中の8月10日(日)に関連企画として浮世絵版画の摺りの実演を行いました。

実演は伝統木版画の制作技術の保存や研究で知られる、東京のアダチ伝統木版画技術保存財団より、摺師と解説の方にお越しいただき、午前と午後の2回にわたって葛飾北斎の名作「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」を摺っていただきました。滅多に見ることのできない浮世絵版画の実演とあって、多くの方が参加されました。使用する道具や紙、絵具などの解説も交えつつ、目の前で繰り広げられる浮世絵版画制作の過程の実際と、摺師の技のすばらしさに、会場の方々も感心しながら熱心に見入っておられました。

また、会期中会場内に設けられた体験コーナーでは、展示作品を基にしたパズルや顔出し看板、江戸の影絵遊びなど、夏休みとあつてか親子連れで楽しむ光景が見られました。



摺りの実演

HOKUSAI
HIROSHIGE
KUNISADA
KUNIYOSHI



体験コーナー 江戸の影絵遊び

いなかったのだが、そこで対応してくれたのはなんと近代日本画の巨匠、狩野芳崖であった。墨仙は東京に出たら美術学校に入るか、もしくは芳崖に入門したいと願っていたが、国を出た六松が芳崖の門人になっているという衝撃の事実はすべての予定を狂わせた。後から入門して「経師屋の六松ごときに先輩顔されることは、どう考へても私には残念だったので」芳崖の門人になることを諦めるくんだり、当時の強烈な身分意識を覗き見するようで興味深い。ようやく会えた岡倉天心からも、美術学校開校まで国へ帰って待つように言われ、望みを捨てて郷里へ戻った。

しかし両親を早くに亡くし、二人の妹を嫁がせるまで働きつめだった墨仙がふたたび東京へ上京できたのは《龍虎図屏風》に出会った次の年、明治29年(1954)である。すでに30歳であり、10代後半から20代

後半までの学びの適齢期を逃したことは本人もよく分かっていた。だからこまますぐに雅邦の門を叩かずに誰に師事すべきかを慎重に考えたようだ。

そのころの墨仙にとって展覧会で観る雅邦の絵は高尚で立派なものであったが、小さいときから習い覚えた円山・四条派のほうが馴染み深く川端玉章の方がよく見えた。兄雪湖の友人寺崎廣業と山口瑞雨に相談すると、廣業は「金を得るには玉章先生もいいが、何処までもいい絵を描いてゆこうと云うのなら雅邦先生に就いた方がいい。君は地方から出て来て金が必要だろうから早く金を儲ける為には玉章先生の門人になった方がいいだろう」と提案した。

雅邦も玉章もともに東京美術学校で教鞭をとり多くの俊英を輩出したすぐれた教育者だが、われらが墨仙の道を決める際の指針はやはり六松にあった。ただしこのとき

の決断は勝ち負けを超えたある種妥協のない武士の美学があった。

「自分は第一に修行に出て来たのだし、兎に角山本六松より上に出なければいけない。それには金は第二だ、雅邦先生に入門しよう」。墨仙は同時に30歳も過ぎてからすでに頭に染み付いている円山・四条派の枠から出るという困難な道を選び取ったわけだ。

時を同じくして入門してきたのは、墨仙同様、雅邦の《龍虎図屏風》に感動し一大決心で京都からやってきた21歳の川合玉堂。四条派の師幸野樞嶺を亡くしての新たな挑戦である。墨仙はこのような柔軟で可能性のある若手とともに修行を積むようになるのだった。

(学芸員 佐々木美帆)

※「」内はすべて
アトリエ8.8 思ひ出を聴く
「雅邦先生の門に入るまで」
島田墨仙 アトリエ社 昭和6年8月より

福井県立美術館 友の会

福井県立美術館友の会では会員の方を対象に、展覧会鑑賞旅行を年に2回実施しています。春から数えて今年2度目の秋の旅行は9月25日(木)～26日(金)に1泊2日で新潟・富山の美術館を巡りました。折からの雨に深まる秋を感じつつ、東西の様々な分野の展覧会を満喫することができました。

友の会が設立されてから今年で30年を迎えてすでに日本国中行きつくした感もありますが、さらなる感動を求めて東西南北アートを巡るわれらの旅はまだ続くのであります。

(◆訪れた美術館…新潟県立近代美術館、新潟県立万代島美術館、富山県立近代美術館、高岡市美術館)



新潟県立近代美術館の前で

詳しくは、県立美術館友の会事務局までお問い合わせください。

【お問い合わせ】 福井県立美術館 友の会事務局 TEL. 0776(25)0452

お知らせ

◎11月～2月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、11月10日(月)～13日(木)、25日(火)、12月1日(月)、12月15日(月)～18日(木)、12月29日(月)～平成21年1月2日(金)、1月19日(月)～22日(木)、2月2日(月)、2月16日(月)、2月23日(月)～26日(木)は、休館とさせていただきますのでご了承ください。

貸館情報 [12/4～3/1]

12/ 4～12/ 6 ● 第9回白崎初代 アメリカンパッチワーク キルトスクール作品展	1/14～ 1/18 ● 福井大学美術科 在学生・OB・OG有志展	2/11～ 2/15 ● 福井大学教育地域科学部 美術教育サブコース 卒業・修了制作展
12/ 4～12/ 7 ● 第22回新彫会彫刻展	1/16～ 1/18 ● 書勢会会員展・学童書展	2/13～ 2/15 ● 福井高等学校芸術科アート デザインコース卒業制作展
12/ 9～12/14 ● 益出 省個展	1/23～ 1/25 ● 第56回福井奎星書展 一会員展・公募展	2/14～ 2/15 ● 科学技術高校テキスタイル デザイン科卒業制作展
12/11～12/14 ● 全国大学・高専卒業設計展示会	1/30～ 2/ 1 ● 第29回日本墨書会展	2/17～ 2/22 ● 2009毎日現代書北陸代表作家展
12/19～12/21 ● 第38回若越書道会展	2/ 4～ 2/ 8 ● 絵遊会作品展	2/20～ 2/22 ● 第5回藤島高等学校書道部展
12/25～12/27 ● 第58回福井書法展	2/ 6～ 2/ 8 ● 第41回洗心小品展	2/27～ 3/ 1 ● 福井大学書道部卒業制作展
1/ 7～ 1/12 ● 第21回美浜美術展	2/ 6～ 2/ 8 ● 福井工業大学建設工学科 建築学専攻卒業研究展	
1/ 8～ 1/12 ● 第8回福井一陽会 新春展		
1/ 8～ 1/12 ● 第27回映彩会水彩画展		

福井県立歴史博物館

福井市大宮2-19-15 TEL.0776-22-4675 休館日:第2・4水曜日

新春特別企画「干支展 はっぴー・牛(ぎゅう)・いやー!」
1月3日(土)~2月22日(日)

2009年の干支は、「丑(うし)」。
「うし」をかたどったさまざまな資料を展示します。
一般100円/高校生以下・70歳以上無料 ※30名以上の団体は2割引き

福井市立郷土歴史博物館

福井市宝永3-12-1 TEL.0776-21-0489 休館日:12月8日(月)・9日(火)・12月28日(日)~1月4日(日)

テーマ展
「館蔵近代絵画展」
11月12日(水)~1月12日(月)

幕末から明治・大正期に活躍した福井の画家と館蔵の近代絵画を紹介いたします。

一般210円(150円) 中学生以下・70歳以上無料
※()内は20名以上の団体料金

●連続講座

『日本書紀』を読む(11)「皇極天皇紀」 11月16日(日) 13時~17時
『日本書紀』を読む(12)「孝徳天皇紀」 12月27日(土) 13時~17時
『日本書紀』を読む(13)「孝徳天皇紀2」 1月31日(土) 13時~17時
『日本書紀』を読む(14)「斉明天皇紀」 2月28日(土) 13時~17時

【とこ】郷土歴史博物館 2階講堂

【講 師】角鹿尚計(郷土歴史博物館学芸員) [各 回] 13時~17時
【申 込】当日会場受付、聴講無料



真崎稲荷社園 高橋由一筆 福井市春嶽記念文庫

広
報
板

日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大萱町1740-1 TEL:077-543-2111

アール・ブリュット
ーパリ、abcdコレクションよりー
生命(いのち)のアートだ
10月25日(土)~11月30日(日)



「加工されていない、生のままの芸術」を意味する「アール・ブリュット」という概念は、フランスの美術家ジャン・デュビュッフェが1945年に提唱したものです。本展では、デュビュッフェの母国フランスの非営利財団abcdの所蔵品により、「アール・ブリュット」の代表的な約60作家、約130点による展覧会を開催します。

一般1,150(950)円/高生900(700)円/小中生700(500)円
※()内は前売および20名以上の団体料金

第62回 滋賀県美術展覧会

12月9日(火)~12月21日(日)

滋賀県芸術祭の一環として、第62回「県展」を開催します。工芸・書道部門と平面・立体部門の2期に分けて展示します。

岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

モスクワ市近代美術館所蔵
青春のロシア・アヴァンギャルド
11月11日(火)~12月25日(木)

日本初公開となるモスクワ市近代美術館の所蔵品によって、20世紀前半に起こったロシア・アヴァンギャルドの絵画を再検証します。ロシア抽象絵画の代表者マレーヴィチ、ゴンチャロヴァ、カンディンスキー、ピロスマニなど、20世紀ロシア美術の青春期に活躍したそうそうたる画家たちの軌跡をたどります。



カジミール・マレーヴィッチ
「刈り入れ人」

一般1,000円/大学生800円/高校生以下無料
※20名以上の団体は上記料金より100円引き
※前売りは上記個人料金から200円引き

～染織家M氏が求めた美のルーツ～
芹沢銈介と源流への旅路(仮称)

2009年1月9日(金)~2月15日(日)

芹沢銈介(1895年静岡生まれ)は、民芸運動の創始者・柳宗悦に出会い、民芸運動に参加した染色家です。本展では、染織家M氏が集めた、のれん、着物、ガラス絵などの芹沢作品とともに、芹沢美学の源流ともいえる民族美術や、民芸運動によって見出された生活の美を展示します。

一般800円/大学生600円/高校生以下無料
※20名以上の団体は上記料金より100円引き
※前売りは上記個人料金から200円引き

三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059-227-2100

エントランスホール天井改修工事のため、2008年9月1日(月)から2009年1月3日(土)まで休館いたします。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどお願い申し上げます。

山口薫展

2009年1月4日(日)~2月22日(日)

独自の色彩感覚と構成による抒情的な作品で知られる洋画家山口薫(1907-1968)の画業を、初期から晩年までの代表作約90点を通じて紹介します。



「花子誕生」
1951年



「若い月の輝り」
1958年

一般900円(700円)/高・大生700円(500円)/小・中生400円(300円)
※()内は20人以上の団体割引及び前売料金